

生活都市とぎつ

～誰もが住みたくなる町へ～



時津街道

今も昔も交通の要衝

江戸時代、長崎と小倉を結ぶ「長崎街道」の海路街道として、長崎の西坂、浦上、そして時津を経て彼杵(現東彼杵町)への大村湾を通る海路へと至る「時津街道」がありました。

長崎街道に比べ、時津街道は西坂から彼杵までの旅程を1日短縮することができたため、交通手段が発達していなかった江戸時代には、時津街道が多く利用されていました。

現在でも高速船による長崎空港への大村湾の海路や、高速道路に繋がる川平有料道路など主要幹線が通っており、時津は今も昔も変わらず、交通の要衝の地となっています。

時津街道



時津街道・鯖くさらかし岩(明治中期)／長崎大学附属図書館所蔵



①日本二十六聖人上陸記念碑《浦郷》



②お茶屋(本陣)跡《元村郷》



③継石坊主(鯖くさらかし岩)《元村郷》



明治政府が定めた街道(道路)を示す文書(明治8年)／長崎歴史文化博物館所蔵

①日本二十六聖人上陸記念碑《浦郷》

時津港に到着した一行は、船上で最期の夜を過ごし、翌朝早く、時津から殉教地、西坂の丘(長崎市)へ向かいました。

②お茶屋(本陣)跡《元村郷》

その昔、時津街道を通る大名や幕府の役人たちが休息所として利用した大村藩におけるお茶屋(本陣)が、当時の面影そのままに残っています。(平成7年、門を町文化財に指定)

③継石坊主《元村郷》

別名「鯖くさらかし岩」とも呼ばれる奇岩で、国道206号沿いの山の斜面に立っています。今にも落ちそうに見えるこの岩は、日本昔ばなしの題材として取り上げられています。(平成13年、町文化財指定)

特産品

雇用拡大や地域の活性化が期待されます

農業は、みかん、ぶどう、びわなどの果樹を中心とした複合経営が主で、近年ではアスパラガスや花木、直売用野菜などの生産が増えています。

水産業では、大村湾でとれる質の高い水産物としてナマコ、モズク、イイダコなどの需要が伸びています。また、ヒラメやタイワンガザミの稚魚の放流事業など「つくり育てる漁業」にも取り組んでいます。



巨峰(ぶどう)



とぎつワイン巨峰



びわ



たわわに実ったみかん



とぎつまんじゅう



黒なまこ石けん



稚ナマコの中間育成

とぎつワイン巨峰

温暖な大村湾の潮風が育てた「とぎつ巨峰」でつくられたワインです。純粹な巨峰ワインの風味を楽しめます。

とぎつまんじゅう

時津といえば「まんじゅう」と言われるくらい、その風味と名は広く知られ、百数十年の伝統を有しています。皮とあんこのバランスが絶妙で、出来たてのまんじゅうは、また格別です。

黒なまこ石けん

大村湾漁協が2年の歳月を経て生み出した黒なまこの石鹸。水分の保持と肌の保護のためのバリアをつくる働きがある「セラミド」と生クリームのようなきめ細かい泡をつくる「サポニン」のダブル効果があり、特に乾燥肌になりやすい方におすすめです。

みかん

太陽の光をたくさん浴びて育ったみかんは、全国の市場で高い評価を受けており、今後も優良品種を安定して出荷できる銘柄産地の育成に努めています。

巨峰(ぶどう)

甘味と酸味をほどよく含んだ本町の巨峰は格別です。本町のぶどう栽培は昭和36年から始まり、現在では、県内最大の産地規模を誇っています。8月中旬から9月中旬にかけて「巨峰狩り」を楽しむことができます。

びわ

時津産のびわは、鳴鼓岳のふもとで多く栽培されています。生育期間を長くして、大粒で甘く高品質なのが特徴です。関東方面へ主に出荷されています。